久光製薬のCSR

《企業使命と経営理念》

― 貼る文化を世界へ ―

「サロンパス®」に代表される経皮鎮痛消炎剤は、「貼る」ことで痛みやコリを治療する医薬品として1934年の発売以来、多くのお客さまにご愛用いただいています。

私たちは、もっと多くのお客さまに「貼って手当てすることの良さをお伝えしたい」「貼って手当てすることに驚きと、安らぎと、感動があることをお伝えしたい」という願いを「サロンパシィ®」(Salonpathy®)という言葉に託し、世界に誇れるTDDS製剤をはじめとする貼付剤の創薬と製剤技術の向上に集中してまいります。

そして、「貼って手当てすることの良さを伝える」ことを私たちの企業使命とし、「世界の人々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ:生活の質)向上を目指す」ことを経営理念と定め、貼る治療文化を世界へ広げてまいります。

CSR活動の考え方

久光製薬の事業活動は、お客さま、地域社会の皆さま、株主・投資家の皆さま、従業員など多くの社会の方々に支えられています。こうした皆さまからいただく信頼こそが、当社が企業としての使命を果たし、持続的に成長を遂げていくための基盤といえます。

また、事業活動を継続していくためには、安定した環境サービスを得られることが大事だと認識しています。

久光製薬は、より豊かな社会の発展と地球環境保全のために、国内外の多様なステークホルダーを尊重し、当社に求められる責任と社会貢献に対し誠意をもって活動を推進していきます。

環境サービス：自然界がわたしたちにもたらす恵み

久光製薬とステークホルダー

久光製薬は、単に企業組織としての責任だけでなく、医薬品にかかわる事業を行うものとして大きな社会的責任を持っています。医療関係者や薬事行政当局とのかかわりでは、単なるコミュニケーションにとどまらず特段の配慮と責任が生じます。商品・サービスをご利用いただくお客さまについても、消費者というだけではなく患者さまとしての側面も持っており、信頼が得られる十分な配慮と良好な関係が必要になります。また、当社の社会的基盤である地域社会、国際社会や自然環境に対しても企業市民としての社会的責任があります。

久光製薬は、このような関係と責任を認識し、安心してお使いいただける医薬品の提供を継続してまいります。

そして、この事業活動を通じ、ステークホルダーである患者さまのQOLが向上するように努めていきます。

多様なステークホルダーとの関係

患者さま・お客さま	当社が扱う医薬品には、医療用医薬品と一般用医薬品があります。 医療用医薬品は、医師をはじめとする医療関係者の処方・投薬のうえで、患者さまがご使用になります。一般用医薬品は、お客さま個人個人が店頭などで商品を選択してご購入いただきます。
お取引先 (製造にかかわるステークホルダー)	医薬品の製造には、原材料としてさまざまなものが使用されています。国内外から必要な原材料を安定的に入手することが必要であり、さらに間違いのない品質を保つことも重要です。近年においては、生産現場における環境への配慮や労働者の状況などにまで考えをめぐらし、必要な取り組みをするべきものとされています。そういった多様な社会的要請に鑑み、直接のお取引先だけでなく二次・三次のお取引先とも信頼関係を構築することに努めています。
従業員 (インナーステークホルダー)	従業員は重要なステークホルダーです。製造販売を手掛ける当社においては、さまざまな能力や役割を持った多様な人材を活かして事業活動を行う必要があると考えています。そのためには、雇用にかかわる課題や教育・啓発、福利厚生、さらには従業員の生活基盤にまで配慮したマネジメントが必要です。また、従業員組合との良好な関係構築や派遣など一時雇用者も含めた人事課題、さらには潜在的な従業員であるリクルーターなどにも配慮が必要であると考えています。
株主・投資家	当社は国内市場に上場し、多くの株主・投資家の皆さまと関係を持っています。適正な利益配分に努め、透明性のある経営に努めることは最低限の義務として取り組んでいます。また、インベスター・リレーションズ(IR:投資家向け広報)を重視し、適正かつタイムリーな情報開示により、当社の経営および事業活動をご理解いただけるようにしています。
国家・行政	法人として、適切な税の納付は最低限の義務です。また、法規制の遵守も果たすべき活動です。
地域社会	当社は国内外の多くの拠点で事業活動を行っています。事業を行う周辺の居住者との関係を良好に保つこと、地域社会の一員として、当該地域の発展に努めることなど積極的に取り組む必要があると考えています。また、地域課題の解決にあたっても、当社がもつさまざまな資産を利用して可能な限り協力することが重要です。
国際社会	社会が抱えるさまざまな課題は、一地域、国だけでは解決不可能な問題もあります。また、経済活動をはじめ、グローバルなコンセンサスが重要となる局面もますます増えてきています。国連をはじめとするさまざまな国際機関との連携を図り、グローバル課題にかかわることも各国で事業を推進する当社には重要な責務であると考えています。
地球環境	すべてのステークホルダーにとって生存の前提となるのが地球環境です。生活環境や資源、エネルギーなど地球環境への配慮は最低限の責任であり、将来社会に対する責任でもあります。医薬品業界においては、自然生態系から得られる多くの知見も重要な経営資源であることを認識し、多様な生態系が担保された地球環境を守り、必要な場合は復元に努めることが重要と考えています。

ISO26000による重点課題の見直し

多くの国や、消費者、NPOや有識者などによってまとめられた国際規格ISO26000には、組織の大小にかかわらず、あらゆる組織が解決すべき社会的責任が記載されています。2010年の発行以来、多くの企業がこの規格を活用し、社会的な責任を果たす活動を推進しています。

久光製薬では、海外子会社も含めてCSR活動をグローバルに推進していくために、このISO26000を手引きとし、CSR課題認識の共有化を進めました。

当社のもつ経営資源を有効に活用し、社会的課題の解決に当社ができることや、当社に求められる課題を明確にするため、ISO26000の中核主題と当社のCSR活動状況を社内ヒアリングにより検証しました。

ISO26000の「関連する行動および期待」を基準に当社およびステークホルダーにとって重要な課題を検証

重要課題と当社とのギャップを評価

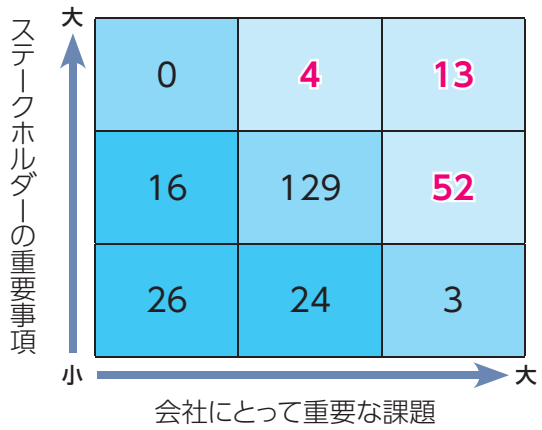
対応が不十分な課題の中から今年度優先的に実施する課題を選択

重要度分析

お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会、環境の側面から、当社に求められる社会的責任について重要度分析を行い、また、当社が必要と考える社会的責任も同様に評価しました。

評価した結果から、ステークホルダーと当社の両方にとって重要と考えられる社会的責任は、69課題列挙できました。

これらの課題の中には、既に対応しているものもありますが、対応不十分なものについては、CSR活動の今後の優先テーマとして取り上げました。



69課題 = 4 + 13 + 52

2013年度のCSR活動テーマ

グローバルなCSR推進

海外子会社におけるCSR活動の推進:各事業所の2014年度事業計画にCSR活動を取り入れ実践する。

二酸化炭素の削減

2020年の工場および研究所における二酸化炭素削減長期目標を設定し、具体的活動に着手する。

生物多様性の保全

本年度末までに、生物多様性の保全活動の方向性を決定し、具体的な活動に着手する。

環境配慮型製品の開発

環境配慮型の製品開発に必要な仕組みを策定する。

CSR調達ガイドラインの策定

本年度末までに、CSR調達方針およびガイドラインを策定し、主要サプライヤーへの説明を実施する。

公平な雇用の推進

多様性のある雇用の実現を実施:法規制の遵守と雇用率の改善を図る。

労働安全衛生の推進

全ての職場において労働安全衛生リスクの分析を行い、行動計画を策定する。

ステークホルダーエンゲイジメントの開催

さまざまなステークホルダーとダイアログを実施し、成果を関係部門と共有する。

当社のCSR活動について話し合う従業員